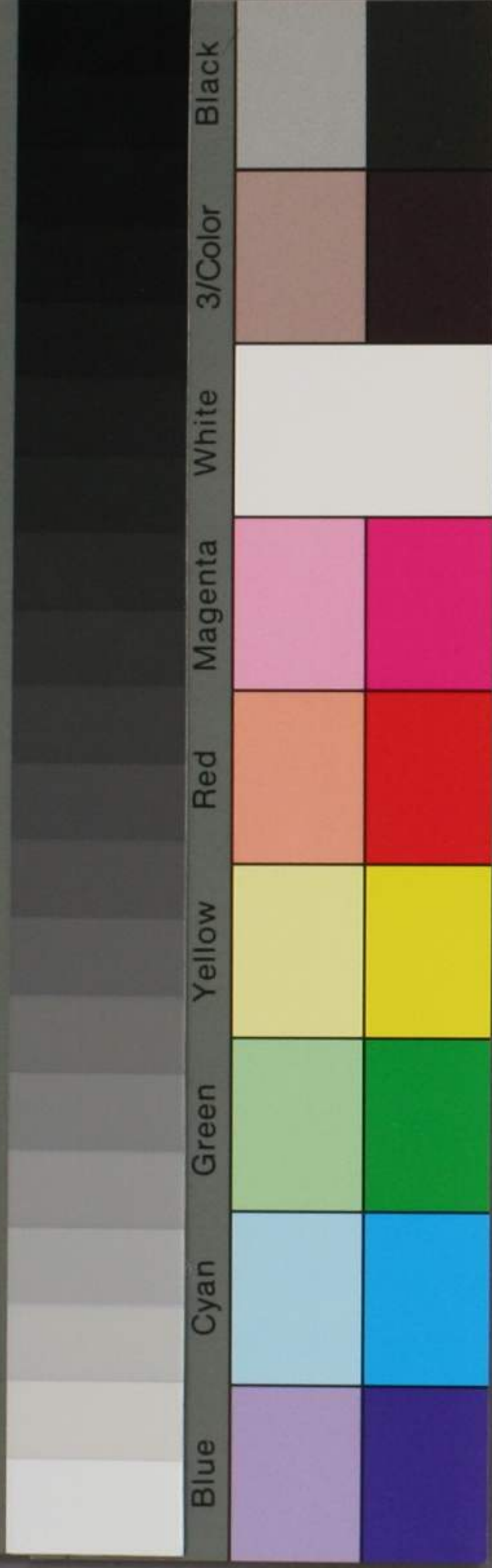


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



泰西七金譯說  
水銀說下  
五

洋学文庫  
文庫 8  
C 268  
5







泰西七金譯說卷之五

馬場貞由譯述

澁江 鮎 鑒試

精潔水銀法

何ニ用テモ水銀不潔ニシテハ可カテサル故ニ先  
ツ最初ニ水銀ヲ精潔ニスル法ヲ説クヘシ其法種  
々アリ左ノ如シ

○第一 先ツ皮ノ袋ニ入レ灑スヘシコレニテ荒  
粗ノ塵埃悉ク去ルナリ

コレニテハ唯表面ノ塵埃ノミガサリテ含有スル不  
潔ノ物ハサラサルナリ如何トナレハ前卷ニ説ク  
カ如クコレニ混和シタル鉛錫ニミマシテ等ハ共

七金譯說 五



ニ皮ヨリ漏レ出ツレハナリ但シ其眞偽ノ差別ハ  
此ノ皮ニテ漉ス件ニ知ルヘシ偽製ノ物ハ容易ニ  
皮ヨリ漏ラス又漏レ出タル粒形眞圓ナラス物ニ  
移サントシテコレヲ動カセハ其粒長ク尾狀ナ  
スナリ

○第二 鹽水酢燒耐硝石汁灰汁石灰汁等ヲ用テ  
洗ヒ濯シヘシコレニテ多分ク穢物ガリ尚美麗ニ  
ナルナリ又ハ

○第三 鹽及ヒ明礬ノ類ニテ揉ムヘシ此他都テ  
乾燥ノ性アルモノヲ用テシテモ良シ  
○第四 最モ精潔純粹ニナリント欲セハ口トル



トニ入レロノ所ニ水半分ヲ入トタル器ニスケ置  
キ以テ徐々ニ蒸燉スヘシ混和シタル金石ノ類都  
テ重寶ナル物ハ口トルトノ底ニ留リ獨リ純粹ノ  
水銀ノミスケ置キタル水中ニ聚ルナリ此ノ如ク  
シテ精潔ニナレタルハ藥用及其外何ニ依ラズ用  
テ甚ハタ良シ又銀朱トナシタル水銀ハ左ノ法  
以テ純精ニナスヘシ銀朱トナリタル水銀一觔按  
前卷ニ所謂水銀ニ硫黄ヲ加ヘテ選  
送ノ便利ニナシクル物ノ類ナリ細木ニ搗キコ  
レニ石灰粉三觔カ又ハ鐵粉一觔カヲ交ヘ陶造ノ  
強キ口トルトノ中三分ノ二ヲ滿タシメ品ニ水半  
分ヲ入レコレヲ其口テ所ニケ置キコレ口

七  
五



フルペレエルの火按ニコレニ當テ燃ル上ニ物ヲ覆ナリニ上セ漸クニ其火候ヲ盛ニメ煨スヘシ水銀自カラ其ス夕置キタル水中ニ滴入ルナリ其滴ハスルヲ止ミタラハ其水中ナル水銀ヲ取り集メ貯フヘキ是最モ純精ノ水銀ナリ

製黒色ニ于ラルモル法

コレ水銀十硫黄或ハ硫黄花十ヲ以テ製スルモノナリ其法種々アリ第一法ハ硫黄二分水銀一分ヲ以テ又第二法ハ硫黄水銀各々等分ヲモツテ第三法ハ水銀四分硫黄三分ヲモツテ自註ニ曰此三法ナリ此ニ合セテ製スルニ亦三法アリ

一法ハ火氣ヲ用ヒス第二法ハ小シク火氣ヲ用ヒ

第三法ハ火ニ火氣ヲ用ヒ鎔シテ製ス左ノ如シ

○第一 火氣ヲ用ヒサル法ハ右ノ二品ヲ合セ石

臼ニ入レテ水銀ノ見ヘサル程ニ至ルマテ磨リ交ユルノミナリ

○第二 小シク火氣ヲ用ユル法ハ精潔ノ鐵臼ニ

硫黄萃ヲ入レ火ニ上セ鎔化スヘシ化シタラハ火ヲ下シ而メ水銀ヲ皮ニ入レテ此中ニ灑シ入ルヲ

火ニ盪メ以テスリ交ユルナリ此法前法ヨシ勝レタリ

○第三 大ニ火氣ヲ用ユル法ハ最初ニ水銀十硫

三



黄トヲ交和シコレヲ陶器ニ入レ其硫黄ノ粒ヲナシタルモノニ火ヲ貼ノ絶ヘス攪勻スヘシ然ルトキハ水銀ト硫黄ト混和シ其餘分ノ硫黄ハ煨散スルナリ尤モ其火強クモヘサル様ニ心ヲ用ルヘシ若其モヘルト甚シケレハコレニ就テ水銀モ殆ント銀朱ノ如キモノニ變ス且共ニ燒散スレハナリ右三法ノ中ニテ第二ノ法ヲ良トス又二品調合ノ分量モ前ノ第二ノ法ヲ良シトス自注ニ曰斯ノ如ク製シタルハ其

チニ用テ銀朱修製スヘシト

主治内外ヨリ川テ年久シク深滲シタル疥癬硬腫惡性膿瘍梅毒及其他ノ病ニ良シ又ヨク蟲ヲ殺ス

發汗劑ニ加ヘ用ユレハヨク發汗シ下劑ニ加ヘ用ユレハ甚ヨク下ス大人ニハ分量六七厘ヨリ一分六厘ノ間ヲ用ヒ小兒ナレハ四厘ヲ度トス毎夕六七日間服用スヘシ

製白ペレシピダート法

精潔ノ水銀四十八錢コレヲ強水又ハ硝石ノ精氣八九十錢ノ中ニ投シテ温室ニ置クヘシ解化スルノリ化シタラハ其上ニ強氣ノ鹽水ヲ加フヘシ然ル寸ハ白粉沈底スルナリコレニ數度熱湯ヲ注キイレテ其鹽氣ヲ洗ヒ去ルヘシ而後ニ其粉ヲ紙上ニ移シ微火ニ炙リ乾シテ貯フヘシ



主治吐下劑ニ用ユ粘液病梅毒ニ功アリ分量三厘ヨリ一分ヲ度トス最モ外用塗リ藥ニ用ユルト多シ即搔痒疥癬頭瘡惡瘡性膿瘍梅毒及此他皮膚ノ諸病ニ良シ

製赤ペルシヒタート法

精潔水銀四十八錢硝子製ノマトラスレト初ト入レ其上ニ強水又ハ硝石精氣八九十錢ヲ加ヘテ水銀ヲ解化スヘシ解化シタラハ火ニ上セ漸クニ火ヲ増シ降燬スルト紅色ニ變スルヲ度トス既ニ紅色ニ變シタラハ火ヲ下シ冷シテ其マトラスヲ打破ルヘシ即紅色ペルシヒタート凡五十六錢ヲ

得ヘシ一法ニハ強水中ニ解化シタル水銀ヲ口トルトニ移シ適宜ノ火ニ上セ其強水ヲ蒸散シ而後ニ火勢ヲ盛ニメ解化シタル水銀ノ紅色ニナルマテ降燬スルナリ此外ニ又法アルトリ  
紅色ノペルシヒタートハ侵蝕スル性アリ故ニ軟膏及塗藥ニ調和シ腐肉息肉硬腫等ヲ治センカ爲ニ專ラコレヲ外用ス甚功アリ又惡性疥瘡小瘡頭瘡惡性頑癩ノ疾病等此他皮膚ノ諸病ニ良シ其白ヘルシヒタートヨリハ大ニ勝レコレナハシリキム膏ニ調和シ貼スレハ惡性ノ諸瘡及腫物ノ毒氣ヲ去リ良性ノ濃膿ヲ生セシメ最モ奇功ヲ顯ワス



ナリ内薬ニハコレ力猛烈ノ勢ナル故ニ梅毒ヲ治  
スル飲劑ノ外ニハ用ユルコナシコレモ分量ハ甚  
微少ナリ

此赤ヘルシピタートヲ以テ又一種ノ藥品ヲ製ス  
ルコアリ名テアルカニム○コラルリニムト云コ  
レ其侵蝕スル所ノ性ヲ大ニ和シタルモノナリ其  
製法ハ紅ヘルシヒタートヲ極末ニ磨リコレナヒ  
品ヲ燒酎ヲ以テ二三度モアヲヒ灌キテマトラス  
ニ入レ煨ス然ル寸ハ強水ノ酸氣或ハ硝石ノ精氣  
去テ甚和ヲカニナルコレ即ユレナリ病症ニ因テ  
ハ赤ヘルシヒタートヨリハ其功ヲ大ニスルアリ

以上紅白二品ノヘルシヒタートハ今世ニ專テ用  
ユル所ノモノナリ此二品ノ外ニ又種々アリ製法  
右ニ異ナリ功能亦各格別ニ司ル所アリ故ニコ  
ニ又コレヲ記ス

製黄ヘルシヒタート法

黄色ヘルシヒタートハ一名テルヘテムシ子ラレ  
ト云フコロルリウス人名ノ命セシ名ナリ製法種々  
アリ精潔水銀八錢純精硫黄油十六錢トヲ合セ  
トルトニ入レ火ニ上セ煮ヘシ白色鹽ノ如ク塊凝  
シタルモノ殘ルナリコレニ清水ヲ投スル寸ハ直  
ニ美黄色ニ變ス此水ヲ去リ又清水ヲ幾度モ其水



ニ味ノウツラサル位ニ至ルマテ投シ換ヘテ洗ヒ  
 灌ヘシ而後ニ紙上ニ移シヨク乾シテ貯フヘシ  
 但シ硫黄ノ油ハゴロク<sup>器</sup>物ヲ以テ製シ得ル故ニ  
 甚タ高價ナリ然ルニ丹藥油ハ性質主治相同シキ  
 カ故ニコレヲ代ヘ用テ良シ其法左ニ記ス  
 精潔水銀十六錢純精丹礬油三十二錢ヲ交和シ口  
 トルトニ入レ乾ク迄砂火ノ上ニ於テ蒸散セシム  
 ヘシ既ニ蒸散シタラハ雨水ヲ温メ以テ數度洗ヒ  
 ソクヘシ其洗ヒメハキタル水味常ノ如クナル  
 至ラハ其黄色粉ヲ取テ乾シタラフヘシ  
 主治都テ白色ノヘルシヒタートハ相同シ梅瘡及

七頑強ナル惡症ノ病又吐藥ニ用ユ分量四厘ヨリ  
 六厘ノ間ヲ用ユ但シコレヲ用ユルニハ心ヲ用ユ  
 ヘシ最初ハ必ス大ニ吐瀉ス而後ニ涎ヲ吐スルナ  
 リ黄色又鬱金色ノヘレシヒタートハ水銀ヲ強水  
 又ハ硝石精ニ解化シコレニ蒲萄酒石ノ油ヲ加ヘ  
 テ降煨スルナリ又強水ニ解化シタル水銀ニ温ナ  
 ル尿ヲ加ヘ降煨スル寸ハ肉色ノヘルシヒタート  
 ヲ得ル即ヘルシヒタートノ色ハ加ヘテ降煨スル  
 物ニ因テ其色ヲ異ニシ又其主治用法ヲモ異ニス  
 ルナリ

製綠色ヘルシヒタート法



綠色ハルシヒタートハメルユリスフレシヒタユ  
 ムヒリユスト云ヒ又ラセルフヒリテイ、ス氏名  
 シ其製法左ノ如シ  
 精潔水銀八錢ヲ硝石精十六錢ノ中ニ投シテ解化  
 シ又ユレニアニチモニヤ三四錢ヲ加ヘ共ニ解化  
 スコレヲ首ノ長キ硝子ノレトルトニ入レ火ニ上  
 セテ水氣ヲ悉ク蒸散シ膿色ノ煙氣發スルマテ煮  
 ルヘシ然後ニ火ヲ下シレトルトノ底ニ殘ル所ノ  
 物ヲ取り冷シ細末ニ搗キテ多クオフヘシコノヘ  
 ルシヒタートハ最モ淋病ノ妙藥トス分量ハ七八  
 厘ノ間ヲ用ユ必ズ吐下ス

又一法ニハ右ノ強水ニ解化シタル水銀一隨精ニ  
 テ化シタル銅トヲ交ヘ共ニレトルトニ入レ前法  
 ノ如シニ蒸散セシムルナリ

製丹求丹法

此ヲ製スルノ法種々アリ然レモ爰ニハ其中ノ良  
 法ヲ擇テシメス  
 水銀三十二錢ヲ良品ノ強水六十四錢ノ中ニ投シ  
 テ解化スヘシ化シタラハ微火ニ上セ水氣盡ク去  
 リ乾キタル粉末トナルマテ是ヲ蒸散セシムヘシ  
 而後ニコレニ同分量ノ海鹽ヲ火ノ上ニ於テ交ヘ  
 攪勻スヘシヨク混和シタラハマトラ、スヲ取り凡



其三分ノ一ノ所ヲ此ノ交和シタルモノヲ以テ滿  
テ紙ニ以テ其口ヲフリキ砂ノ中ニ投シ漸クニ火  
ヲ盛ニシ水銀悉ク上ニ着クマテ燬升スヘシ

又法

水銀三十二錢ヲ強水六十四ノ中ニ化シコレヲ  
コルフノ由ニ投シ微火ニ上セ悉ク水氣ノ去ルマ  
テ徐々ニ蒸散セシムヘシ而後コレニ燬化シ白色  
ニナシタル丹礬及海鹽精四十錢ヲ加ヘコレヲ玻  
璃ノコルフニ入レ塊ヲチフヒ微火ヲ以テ升燬ス  
スヘシ

又法

強水ニ水銀ヲ投シテ解化シ此ヲ冷ナル地ニ安ス  
ル寸ハ自カヲ束針紋狀ヲナシタルモノヲ生ヌ此  
ヲ取り其四分ヲ一程ノ食鹽ヲ加ヘテ揉ミ合セコ  
レト右ヲ束針紋ヲナシタルヲ降キタル其餘分ノ  
モノトヲ共ニ玻璃ノレトルトニ入レ微火ニ上セ  
前法ノ如ク燬升スヘシ此法ニテ製シタルハ其侵  
蝕スルノ功稍前法ニテ製シタルモノニ劣ルナリ  
此他製法種々アレレ右ニ記スル所其中ニ於テ良  
法ナリ

猛丹汞丹ノ質ハ即鹽中ノ酸氣ニテ水銀中ノ液汁  
濕氣ヲ除キテ乾カシ而シテ束針紋狀ニナシタル



モノナリ此レハ酸氣最烈ナル故ニタ、侵蝕スル  
 功ノ甚シキノミナラス尚水銀ノ微密ノ氣混和存  
 在スルカ故ニ諸毒ノ長タリ乃コレヲ一厘五六毛  
 ナ用ユル寸ハ壯健ノ人トイヘ此即時ニ藥劑ヲ服  
 セサレハ死スルナリ然レ此亦コレヲ種々ノ法ニ  
 因テ再ヒ製スル寸ハ毒氣去リテ少シモ危ナキ  
 一ノ妙藥トナル即ト口シス及ヒ此他ノ製藥ノ如  
 シ然リ

猛升汞丹ハ都テ外用腐蔡ニ用ユ則流膿、硬腫腺  
 綿様肉及ヒ難治ノ硬腫等ヲ治シ又久シク治ヒサ  
 ル膿瘍ヲ清除スルニ用ユルナリ

此外コレヲ用テ甘升汞丹注ニ曰製法及ヒヨユテ  
 イリユムシンナハリスアシチモニテクワハカテ  
 ニカ及此他ノ水藥ヲ製ス煉金家及燬匠皆コレヲ  
 用ユルナリ石灰汁半觔ノ中ニソツヒル五分ヲ投  
 スル寸ハ其灰汁忽チ黄色ニ變ス此ヲアクワハカ  
 テニカト名ク久シク治セサル膿瘍ヲ除清シ且イ  
 ヤスタメニ用チユソツヒル五分ト膏微水九十六  
 錢トヲ交和シタルヲヘリニルリ名ノアクワ井ヒ  
 タトイフ又コレレイキワトトル此イフナリ疥瘡  
 並ニ此他皮膚ノ諸病ニ專ラ用ユ

或ハ曰ソツヒルハ礬石ヲ加ヘテ偽造スヘシ則其



法アリト然ルニ子ウマン名君曰此説ヒナリ礬石  
ト水銀トハ升煨シ合躰スルコト能ワス且束針紋狀  
ノ物トナラス然レハ急ソ礬石ヲ用テ此ヲ偽製  
スルコト得ニヤ尤モ細末トナシタルハ調和スヘ  
シト

解ソツヒル毒法

前件略云フ如ク誤テソツヒルガ腹中ニ入ル時ハ  
危キ害ヲナス其毒礬石ヨリハ烈シク如何ントト  
レハコレカ腹中ニ入ル寸ハ直ニ内臓ヲ浸蝕ス故  
ニ死スルナリ若シ人誤テ礬石或ハソツヒル及ヒ  
此他斯ノ如キ侵蝕スル毒氣アル物ヲ服シタラハ

直ニ年久シキヨヘタル油或ハ新製ノ牛酪或ハ古  
キ猪脂等ノ類ヲ服セシメテ吐下セシムヘシ此類  
ハ其氣毒ヲ上下ヨリ送り出スノミナラス尚其猛  
烈ノ氣ヲ寛メ薄フスルモノナリ而後三日ノ間ハ  
猶温ナル新乳汁ヲ飲マシムヘシ但シ右ノ脂油ハ  
時刻ヲ移サズ即時ニ用ヒサレハ死スルナリ

製トロシス法

トロシスハ右ノ猛升汞丹ヲ甘和シタルモノナリ  
即此ヲアキラアルハウネトアレントアライラ  
ウレスチスハニセイマコキムミチラレ及ヒハン  
セイマコキムヲタニ化云製法種々アリ然レモ



爰ニハ唯其最上法ヲシメスソウピル八菱ユレ  
 生水銀六菱カ又ハ八菱カヲ加ヘテ平滑ナル硝子  
 器又ハ石臼ニ入レ水銀ノ黒色又ハ微黒色ニナリ  
 テ粒ノ見ヘサル程ニ至ルマテ此ヲ磨シ合スヘシ  
 自<sub>ナ</sub>用<sub>ル</sub>ニ<sub>日</sub>カ<sub>ナ</sub>ラ<sub>ス</sub>銅<sub>充</sub>モ<sub>コ</sub>レ<sub>ニ</sub>二<sub>三</sub>滴<sub>水</sub>ヲ<sub>加</sub>ヘ  
 テ磨スヘシ其氣鼻口ヨリ入ル<sub>ト</sub>ナシ既ニヨク混  
 和シタラハ相應ナル大サ<sub>ヲ</sub>餘<sub>リ</sub>長<sub>カ</sub>ラ<sub>サ</sub>レ<sub>氏</sub>  
 廣キ口<sub>ノ</sub>ヒ<sub>ヨ</sub>ル<sub>ル</sub>ト<sub>亦</sub>ハ<sub>煨</sub>升<sub>ス</sub>ヘ<sub>キ</sub>器<sub>ニ</sub>  
 入共蓋ヲ固ク覆フヒ其入レタル藥劑ノ高<sub>リ</sub>ホ<sub>ト</sub>  
 砂中ニ埋メ合藥ノ尚ヨク混和スル様ニ初メハ微  
 火ヲ以テシ漸クニ火勢ヲ盛ニシ終ニハ十分ニ烈

シクススヘシ然ル寸ハ升乘丹ヒヨールノ上ノ方  
 ニ附着ス而後ニ火ヲ消シ其器ヲ冷シ其上ニ附キ  
 タル束針紋ヲナシタルモノヲ取ルヘシコレ即ト  
 ロ<sub>シ</sub>ヲ<sub>手</sub>リ<sub>但</sub>シ<sub>コ</sub>レ<sub>ニ</sub>尚<sub>生</sub>水<sub>銀</sub>附<sub>着</sub>シ<sub>テ</sub>アル<sub>ト</sub>  
 アリユレハ除キ去ルヘシ又其器底ニハ紅色ノ粉  
 未アル<sub>ト</sub>アル<sub>ト</sub>ナリ都テ升煨スル<sub>ト</sub>十分<sub>ナ</sub>ラ<sub>リ</sub>ル  
 寸ハ其背和スル<sub>ト</sub>十分<sub>ナ</sub>ラ<sub>ス</sub>尚<sub>侵</sub>蝕<sub>ス</sub>ル<sub>毒</sub>氣<sub>存</sub>  
 スル<sub>ナ</sub>リ<sub>故</sub>ニ<sub>コ</sub>レ<sub>等</sub>ハ<sub>再</sub>ヒ<sub>右</sub>ノ<sub>如</sub>シ<sub>テ</sub>升<sub>煨</sub>ス  
 ヘシ即升煨スル<sub>ト</sub>再<sub>三</sub>ニ<sub>及</sub>ヒ<sub>タ</sub>ル<sub>モ</sub>ノ<sub>ハ</sub>藥<sub>用</sub>ト  
 ナシテ最モ功アリ其升煨スル<sub>ト</sub>度<sub>ヒ</sub>重<sub>ル</sub>ホ<sub>ト</sub>



下利スルノ功ハ薄ラキ發汗セシムルノ功ハ強ク  
ナルナリ

右ノ如シテ八九度モ升煨シタルト口シスハ最モ  
甘和ナリ是ヲ名テハナセアメルキアリスト云ヒ  
或ハカロメラント云ヒ或ハカロメラストイヒ或  
ハメルユレリユスユルシスイヤホレイユス云  
フナリ是ヲ諸症ノ瘦削病ニ用ユル寸ハ其奇功ヲ  
顯ス丁人慮ノ上ニ出 又他ノ適宜ノ藥劑ニ加味  
シ用フル寸ハ右ノ諸症ノ妙藥ナリ上品ノト口シ  
スハ都テ白色ニノ微少ノ黄色ヲ含ミ塊凝シ且少  
ク透徹シタルモノナリ少シニテモ辛辨ノ味ヒア  
ル物ハ惡シコレカ善惡ヲ索探セシニハ石灰汁カ

又ハ鎔化シタル蒲萄酒石ノ油ニ投シテ試ムヘシ  
其液汁ノ色少モ黄色ニ變セサルモノハ良シトス  
ルナリコレハ甚ダ和ラカニナル下劑ナリ他ノ下  
劑ニ調合シテ丸藥トナシ用ユル寸ハ其功甚シコ  
レヲ發汗藥ニ交和シ内服スル寸ハ諸種ノ介癬内  
攻及ヒ此他皮膚ノ諸病ヲ治ス又ナク諸症ノ梅毒  
病ニ用テ吐涎セシム又ヨク蟲ノ殺ス分量ハ患者  
ノ年齢病毒ノ多少ニ因テ八厘ヨ 二分四厘ノ間  
ヲ用ユヘシ和二瀉スルナリ軟膏或ハ脂油ノ類ニ  
加ヘテ外用スル寸ハ皮膚ナル諸症ノ病疥瘡惡性  
膿瘍ヲ治スルノ良藥トス



甘汞丹及此他水銀製之藥ヲ吐毒劑ニ用ユルノ  
 法ハ梅毒家ニ任セテコ、ニ略記ス而ノ左ニハ口  
 シン○ハシ○スウ井イテシナル者ノ發明ヒシ諸症  
 ノ梅毒ヲ吐涎ヒシムルコトナクシテ忽チ治スル猛  
 升汞丹ノ製法ヲシメス此ハ譬ヘ血脉神經骨節ニ  
 侵徹シタル惡症ノ諸微毒トイヘ此法ニ隨ヒ滴宜  
 ニ製シホトヨクコレヲ服ヒシムル寸ハ身時ニ全  
 治スコレ新ニ發明セシ水銀ノ妙徳ナリ  
 前ニ記ス八九度升煨シタル甘汞丹ヒ水氣粘液惡  
 性液等ヨリ生スル梅毒病閉塞病敗血病水病腺腫  
 頑硬結等ノ諸腫介瘡頭瘡蟲症寸白蟲瘡年ヲ經タ

ル膿瘍等ニ用テ甚タ功アリ分量ハ八厘ヨリ五分  
 迄々内ヲ用ウヘシ尋常製ノ甘汞丹モ用法良キ寸  
 ハ斯ノ加キ功ヲナストイヘ此數度升煨シタルヒ  
 ノ大ニ勝ル

斯微天人所發明用水銀製梅毒病藥法

名譽バロシ○ハシ○ス井イランハ天下ノ人  
 ナ救フ事ニ絶ヘス思ヲ勞シ意ヲ注キシカ終ニ梅毒  
 毒病ヲ治スルコトノ妙法ヲ發明セリ即左ニ記ス此  
 ヲ用ユル寸ハ吐涎スルコトナクシテ其病全ク治ス  
 ルナリ  
 精潔ノ猛升汞丹一分九厘ニ毛ヲ一百九十二錢ノ



麥酒中ニ投シ一ヒツ、チ「サスサブラ」イマ茶ノコ  
トシニ煎シタル汁カ又ハ金剛刺根カ或ハ梅子煮  
汁小一ンフリ一杯ノ中ニ入テ朝夕ニ服スヘシ  
若シ病者麥酒ヲ好マズシハ他ノ藥水ニ調和シ用  
ユヘシ即汞丹一厘六毛ニハ水或ハ酒自注キニ日ラ  
シ水リ六十錢ノ割ヲ以テ調合スヘシ但シ其調和ス  
ル所ノ藥水ハヨクセニリイ名虫ノ汁ヲ加ヘテ色ヲ  
着ク用テ良シ

此藥劑ニテ梅毒病ノ全ク治スルコト殆ント吐涎  
劑ヲ用ヒシカ如シ○尚梅毒條下ニ詳ナリ  
然レ此藥劑ノ製法惡キカ或ハ用法ノ宜カラサル

寸ハ猶故ニ宜ク注意スヘシ若シコレニテ吐涎ス  
ルニ至テハ隔日ニ下劑ヲ用ユヘシ患者此ヲ服ス  
ルニ二三日間ハアタ、カニノ寒ヘリル様ニス  
ヘシ

此法ハスウイテンナル者發明シテ曰ニトニノ名  
醫シルヘステルナルモノニ傳ヘリ即此シルヘス  
テルノ著書藥品主治實試篇ト云フノ第二卷及ヒ  
此他諸邦ノ目錄ニモ載セタルナリ此藥ハ一二年  
ノ間絶ヘス服シテモ少ク害ヲナスコトタヘテナシ  
此藥ニテハ梅毒病須臾ニメ治スルナリ最モ食禁  
ヲ止シク守リ身ヲ慎ミ、子ニ温ニメ居ル寸ハ其



功尚著シ  
 斯ノ如ク此藥ニ妙功アリ然レ臣己カ拙工ニ因テ  
 此妙藥ノ惡ミソシル者アリ或ハ己ニ利益ヲウル  
 一ノ少カラントノ恐レテソシルモアルナリ其徒  
 ハ皆吐涎藥ニアラレハ微毒病ハ治スル者ニア  
 ラスト云フナリ即口ントナリ鄙賤ノ徒ニ在テ  
 ハタヘテ此藥ヲ信用スルモノナシ都テ容易ニ  
 治セス且苦惱甚シヤヨタレ藥ノ信シ用ユルナリ  
 此藥ヲ水ニ投シタルハ甚タ安全ニノ且容易ナリ  
 孕婦乳子共一用ユヘシ但シ此藥ヲ用ヒ試ムルニ  
 麥酒ニ和シタルモノ其功大ニ勝ルナリ

此スウイテンノ法ノ如ク汞丹ヲ内服スルヲハ醫  
 生ノミュンニキ君モ共ニ發明セリ即サントホル  
 君ノ世ニ公行セシ宛理醫術論ノ中ニ載セタ  
 リ  
 汞丹ハ我邦ニテ價昂ク常用ノ藥品ナリ然ルニ此  
 妙功アルヲ知ラサリシハ豈奇ナラサランヤ古  
 法ノヨタレ藥モ右ノスウイテンノ製藥ト其功相  
 同シ然レ臣吐涎スルヲ甚シク患者ノ勞腦右甚シ  
 然ルニアムステルタム<sup>各地</sup>ノ療病院ニテハ尚今ニ  
 モ梅毒ニハ古法ノヨタレ藥ヲ用ルナリ但病毒ノ  
 厚薄ニ因テ右スウイテンノ製藥功十キトアリ然



レ此藥ノ功ナキ症ハ古法ノヨタレ藥ヲ用テモ  
猶功ヲナサルナリ

布連吉名人所發明水銀製藥用法

布連吉ハウエー子ルノ瘍醫ナリ此人亦吐涎セン  
ムルコナク水銀藥ヲ用テ梅毒病ヲ治スル法ヲ考  
究セリ即其コレニ用ユル水銀ハ最初ニ少シク  
ラヒヤコムヲ銕シコレニ和シタルモノナリ此化  
シタルヒノヲ藥汁軟膏及ヒ此他ノ藥品ニ加ヘ用  
ユルナリ此法ハ千七百六十八年著ハセシ書中ニ  
ノセタリ水銀トアラヒヤコムトハハナハタヨク  
混和スルモノナリ水銀一錢アラヒヤコムニ錢共

ニ石白ニ入レ少シク地綿水ヲ加ヘテ水銀ノ見ヘ  
サル程ニ匣ルマテヨリ合ヌヘシ其上一クハメス  
ヲ以テ製シタル蜜四錢地綿水六十四錢ヲ交和シ  
テ貯ハヘ置クヘシコレヲ單法ノク井キニキヌテ  
ユートルト名ツク毎朝夕ニヒツ、ヲ服セシムヘシ  
又コレニアルサムノ類ヲ加味シテ施サント欲セ  
ハハルサムコハイハトアラヒヤコムトヲ和シ置  
キユレヲ毎度ニ五分ツ、加フヘシ

斯ノ如ク製シタルヲ用テクイキ○シロトフ及ク  
井キ○ハルセムヲ製スヘシ最初ニ水銀一脂トヲ  
和シタルハコンキユンテムユイリテム及此他ノ



藥劑ヨシ混和スルナリ

此ノ布連吉ノ法ヲ以テ製シタルヲ用テ吐涎セサ  
ルト云フコハ覺束ナシ即ユンニキ名君ノ著書ニ  
大儒カンペル各諸門弟子ノ目前ニ於テソレン  
ノ法ヲ患者ニ與ヘ試ミシニヨタレヲ吐セリ故  
ニコノ車ノ布連吉ニ書通セシ一敗血病及此類ノ  
病症ニ用レハ都テ吐涎スト答ヘリトナリ然ルニ  
人ウイテソノ法ニテ製シタルモノハ此症ニ用テ  
ヨタレヲ吐スルコト最モ稀レナリ  
ソレニキ發明ノ法ハ未タ盡サタル所アリ而レハ  
其調混交セシムルノ法ハ甚タ良シ後世ニ至ラハ

人必ス其上ヲ發明盡スヘシ此他水銀製藥ノコトハ  
ミユニツキ著書ニ詳ナリ

殺水銀法

製煉家及レ製藥家ニテ水銀ヲ殺スト云フハ水銀  
ニ他物ヲ加ヘテ其流動逆變ノ性質ヲ除去シ未審  
ノ細粒ニ分離スルコトナリ乃水銀見ヘ人殆ク消  
失シタル力如クニナル都テ皆粘氣アル物或ハ脂  
油ノ類ヲ加ヘ絶ヘス攪勻スレハ自カラ細微ノ小  
粒トナリテ更ニ見ヘリルホトニ至ル最モ黒色又  
青色ノモノトナルナリ  
硝子器又ハ小キ石臼又ハ茶ワシノ類ニ水銀ヲ入



レ佳品ノテルメルイニヲ少シツ、加ヘテ木杖又  
ハ鐵棒ヲ以テ絶ヘス攪勻スル寸ハ水銀悉ク微細  
ノ小粒トナリ終ニハ肉眼ニテハ見ヘサルモノト  
ナルナリテレメンテイニノ代ニハ濃キ豕脂半酪  
及ヒ此外斯ノ如キ類ノ濃キ油ヲ用テ良シ空心ノ  
時ノ唾ヲ用テ此ノ如クニシテモ死スナリ卵白卵  
黄樹脂ノ類ヲ用テモ又然リ

油ヲヲ用テ殺シタル水銀ヲ朝夕ホトヨク患所ニ  
塗ル寸ハ諸種ノ疥癬搔痒及ヒ他皮膚ノ諸病ヲ治  
コレニ擦リタル水銀ハ侵徹シテ周身ニ環リ不潔  
ク介瘡梅毒ヲ不日ニノ悉ク表發ノ蒸氣或ハ下利

シテ除去スルナリ最モ一時ニ多ク又ハ日久シク  
絶ヘス用ユル寸勿レ擦ルニモ唯其患處ノミニ點  
スヘン然ラサレバヨク吐スルナリ涎吐唯梅毒  
毒病ノミニ要スルナリ此ヲ綿布又ハ毛布ニ少シ  
ク貼シテ髪虱又ハ體ノ虱ニ着クレハ多クマテ消  
除スルナリノミニ防シニハ更ニ功ナシ

細末水銀法

流動逆發スル性質ノ水銀ヲ臼ニ入レテ搗キ細末  
トナスト云フテハ殆ント奇談ニ似タリ然レモ水  
銀ヲ硬ク塊凝セシムル寸ヲタテ知レハ猶コレヲ  
未下ナシ得ヘシ其塊凝セシムルノ法種々アリ左



二記ス

○第一法 佳品ノ鉛ヲ鎔化シヨク化シタラハ火ヲ下シ冷スヘシ其冷ヘテ未タ十分ニユラサル前ニ此鉛ノ中央ニ孔ヲ穿テ其中ニ細密ノ綿布ヲシキ其中ニ水銀ヲ入ルヘシ硬ク塊凝スルナリ此ヲ取リテ搗クヘシ又

○第二法 絶布ニ水銀ヲ包ミコレヲ鎔化シタル處ノ上ニ持テ翳又ヘシ自カテ逆流ノ質ヲ失シ硬ク塊凝スルナリ此ヲ取テ搗キ末スヘシ

第三法 一千七百五十年ノ學校ノ記録ニ一法ヲ載セタリ即水銀ヲ器ニ入レ密封シ六九十日ノ間タ

ヘサル火上ニ煨化ス然ルトキハ水銀硬キ紅色ノ實體ト變シ且ツ最初ノ分量ヨリハ甚ハク重クナリタルナリ而後ニコレヲ未ニ搗キ又生水銀ノ中ニ投シテ混和セシメ又器ニ納メ始メノ如ク晝夜タユルコトナキ火上ニ於テ煨化スルコト二三日間ノ間ノリスノ如クスルコト二三度ニ及ヘハ水銀硬ヤ實體トナリ尋常ノ火氣ヲ以テハ化ス可ラサルモノナリ

右ノ諸法ヲ以テ水銀ヲ塊凝セシメタラハ其後ニ搗キ細末トナスヘシ

塊凝水銀法



綠青之細末ヲ鑪壺ノ底ニシキコレニ孔ヲ造リ卵  
白ニ侵シタル綿布ニ水銀ヲウハミコレヲ右ノ孔  
ニ入レ其上ニ硼砂ヲ置キ而シテ其上ニ又少シク  
綠青ヲ盛リ其上ニ細末ノ硝子粉厚サ一二指橫徑  
計ヲ入レ而シテ鑪壺ノ蓋ヲ覆ヒ綿密ニ其上ヲ塗リ  
塞キテ猛火中ニ投シテ燬ク一小時ニ然ル寸ハ水  
水銀自カラ塊凝スルナリ但シ火勢ハ漸クニ猛烈  
増盛スヘシ

又法 而對ニコレニ水ニ加ヘ其水  
細末ノ綠青及ヒヨク乾キタル食鹽各四十八錢水  
銀三十二錢ヲ右リ而後ニ燒鐵ヲ投シ冷タルソ

水ヲ鐵壺ニ入レ火ニ上セ其中ニ右ノ食鹽ヲ溶シ  
而後ニ同シク右ノ綠青ヲ入レ化シ鐵片ヲ以テ絶  
ヘスコレヲ攪勻シ微火ニテコレヲ除々ニ煮ヘシ  
其後ニ右ノ水銀ヲ入レ加ヘ尚煮ルコト小半時而シ  
コレヲ火ヨリ下シ其紅色ニ變シタル鑪壺中ノ水  
ヲ除キ去リ其水銀ヲ洗ヒ灌キ寒冷ノ清水ニ投シ  
テ數度凍凝セシムヘシ其後ニコレヲ木造ノ盆ニ  
移シ寒冷ノ空氣ニ當テ尚硬ク凍凝セシムヘシ  
此凍凝シタル水銀ト籌金根及ヒ燬處ノ金燂各等  
分ヲ取リコレヲ鑪壺ノ中段々互ヒ違ヒニ納メ固  
密ニ其蓋ヲ覆フヒ且塞キテ竈中ニ投シ始メ



ハ微火ヲ以テ漸クニ火勢ヲ盛ニシ蒙龕ヲ以テ火  
ヲ吹キタテ煨ク凡ソ半時許ノ間然ル寸ハ壺中  
ノ物悉ク鎔化ス其化スルヲ度トシテ火ヲ下シ冷  
ムヘシカク製シタルモノハ其用甚々多シコレヲ  
以テ膏藥ヲ製シ膿瘍及ヒ腫物等ニ貼シテ功アリ

川水銀製銀

礬石ト食鹽トヲ等分ニ合セ砂火ニテコレヲ煨升  
スヘシ而其塊ニ附着シ束針紋ヲナシタルモノ、  
ミヲ取リ此他ノ粉末及ヒ其底ニ殘留タル滓ハ除  
クヘシ而シテ彼ノ束針紋ヲナシタルモノヲ取テ又  
始メ如ク煨升スヘシ斯ノ如ク幾度ヒスルヲ其粉

未ノ出テ止ムヲ度トシテ止ムヘシ又銀ヲ水銀中  
ニ投シテ化シ火ニ上セ其水銀ヲ蒸散ヒシメテ洗  
ヒ灌クヘシ斯ノ如ク幾度モコレヲ水銀ニ化シ蒸  
散セシムル一其コレヲ洗ヒソ、ク水ノニコラサ  
ル様ニナルヲ度トシテ止ムヘシ即精潔ノ銀粉ヲ  
得ルナリ

此銀粉八錢ト前ニ云フ煨升シタル礬石三十二錢  
トナマトラスニイレ其マトラスヲ横ニ居ヘテ煨  
升スル上ニ着カサル程ニ至ルマテ幾度ヒ煨スヘ  
シ自注曰此ヲヨコニスヘテ煨クルトキハ度ハ上下  
シカル寸ハ終ニ石ノ如クニナルヘシコレヲ取テ



碎キマ、インハツトニ入レコレカ悉ク油ノ如ク  
 鎔化スルマテ煨スヘシ  
 斯ノ如クナシ終リタラハ此ノ油ノ如クナリタル  
 七ノ一分水銀四分ヲ取り先ツ最初ニ此水銀ヲ鑑  
 壺ニ入レ而後三前ノ油ヲ入レ火ヲ徐々ニ増シコ  
 レカ委ク凝塊シテ鑑壺ニ附着スルマテ燒夕ヘシ  
 斯ノ如ク煨シ終リタラハコレヲ灰床ニ入レ鉛ヲ  
 加ヘテ精製スヘシ即美麗ノ銀ヲ得ルナリ  
 令塊凝水銀至可鑄造法  
 前件シメヌ所ノ法ニ隨ヒ鉛ヲ以テ先ツ水銀塊凝  
 七シムヘシ然レ後ニコレヲ打碎キ強氣ノ酢ヲ入

レニ煮ルヲ四半小時而メコレヲ酢百六十度鹵砂  
 二麥ヲ加ヘタルモ、中ニ投シテ八日ノ間其終  
 ニ浸シ置クヘシ自註ニ曰其水銀ノ大ニ因レテ後  
 其水銀ヲ取り出シ鑑壺ニ入レ蓋ヲヲノヒ塗リ塞  
 キ微火ニ上セ段々ニ火勢ヲマシ鎔化スヘシ其脆  
 キ性ヲ失スルナリ其後ニ其水銀ヲ取り出シ大才  
 ル陶壺ノ底ニ硫黃ヲ布キ其上ニ是ノ水銀ヲ鈞リ  
 下ケテ微火ニ上セ段々ニコレヲ温ムル寸ハ下ノ  
 硫氣悉ク上ノ水銀ニ附着スヘシ此ノ如ク幾度モ  
 コレヲ硫氣ニ中ル件ハ水銀自カラ鑄流スヘク又  
 槌ヲ以テ打延ハスヘキ性トナルナリ



塊凝水銀又法

綠青丹藥各四十八錢共二細末トナシ新キ鐵壺ニ  
 強氣ノ酢ヲ入レコレニ前ノ細末ヲ入レ火ニ上セ  
 煮ルヘシ扱其中ニ水銀四十八錢ヲ入レ初メハ微  
 火ニソ次第ニ其勢ヲマシ篋ヲ以テ始終絶ヘス攪  
 勻シテ凡ニ小時ノ間煮ルヘシシカルトキハゴト  
 ヲシ沈底スヘシ其後一大ナル陶器ニ清水ヲ入レ  
 置キ此ノ中ニミギノ沈底シタルモノヲコト々ク  
 イレコレニ混和シタル不潔ノモノヲ除キ去ラン  
 カ爲メ手ヲ以テモミアラヒソ々々其水ヲ入レ換  
 ヘ全ク清潔ニナル迄何度モユレヲアラヒ灌クヘ

シ而後ニ其塊ヲタル水銀ヲ取リ出シ綿布ニツ  
 ミ其水氣ヲ除キ去テ潔白ノ紙上ニ押シ延ハシ未  
 全ク凝ラサル中ニ細ク綿密ニ斷チ切りコレヲ家  
 外ニ出シ風氣ニサラス一夜然ル寸ハ其延シテ  
 斷チタル水銀鐵ノ如クニ硬ク塊凝スルナリ  
 斯ク硬ク製シタル水銀ヲ鎔化シカワコレニ色ヲ  
 添シニハ煨處ノ金煤及麝金各四十八錢共ニ鐵壺  
 入レ交和シコレヲ以テ右ノ塊凝セシメタル水銀  
 マ上下ヨリミ覆ヒツムヘシ自註ニ曰最モ上而  
 後其蓋ヲ覆ヒ綿密ニ又リフリキヨク乾シ少モ間  
 隙ナキ様ニシテ上下左右ヨリ炭ヲカク囊筒以テ



吹キタテ鎔化セシムル丸小半時餘而後コレヲ  
漸クニ冷シ翌日ニ至テ鑪壺ノ蓋ヲ閉キ見ル寸ハ  
黄金色ヲナシタルナリコレヲ取テ陶壺ニ入レ水  
ノ清ムマテ幾度モ入レ換テ洗ヒ灌シヘシ而後ニ  
コレヲ小ク霰ノ如クニ切り小キ鑪壺ニ入レ小シ  
ク逢砂ヲ加ヘテ金銀ヲ鎔ヌ如クニシテ鎔シコレ  
ヲ整ニ鑄入スルコトコレヲ用テ指輪系索及ヒ此他  
ノ品物ヲ製造スルニカク製シタル水銀ハ諸病ニ  
用テ甚ク功アリ即風寒ヨリ涕泗ヲ發スルヲ治ス  
敢テ婦人ノ月水閉止及子宮痛ニ功アリ婦人ヨリ  
コレヲ用テ後身ヲ慎ミ用心セサレハ忽チ指ニ貫タレ

輪或ハ身ニ纏フ所ノモノ其色ヲ変スルナリ然レ  
モ其病ハ猶治ス此ヲ煮タル水ノ蟲ヲ殺スル  
ト生水銀ヲ煮タル水ヲ服スルカ如シ  
新ノ如クシテ水銀ヲ塊凝セム尚又外ニモ法ア  
リ然レモ其法皆眞法ニアラスト見ユ既ニ今右ノ  
如クシテ製煉家コレヲ塊凝セシムルトイヘモ實  
ハ不易ノ硬キ金トナスコトヲ知ラス固ヨリコレヲ  
以テ金銀ヲ製スルコトハ更ニ未タ明カナラズ如何  
トナレハ右ニシメヌ法ヲ以テ製シ硬凝シタル水  
銀ハ昔年月ヲ經レハ風散シ漸クニ一ノ無用ノ質  
ト化スレハナリ



用鉛裝水銀法

離蓬鹽一觔木灰四觔石灰一觔煨化シタルケイ石  
 二觔共交和シ此二蒸露罐ニテ引キタル耐チ加ヘ  
 テ灰汁ヲ造リ其中ニ鉛二觔ヲ投シテ解化スヘシ  
 灰汁既ニ色ニナリタラハ此二礪砂八十錢ヲ入  
 レ化シタラハ其液汁ヲ悉クコロムハルヌニ入レ  
 漸クニ火勢ヲ増シテ煨又ル寸ハ逆流スル水銀少  
 クトモコロムハルヌノ受器中ニ三十二錢ヲ得ル  
 川リハ礪砂ニ蒸スル水銀ヲ入ルルニ其法ハ

又法

鉛ノ鑪子屑一觔鹵砂三十二錢極末ノ赤瓦三觔共

二コロムハルヌニ入レ煨夕丁六時ノ間ニ漸ク火  
 勢ノ増シ終ニ至テ火勢ヲ最モ甚シウスヘシ但シ  
 コロムハルヌニ附着スル受器ハ大ニメ其中腹逆  
 水ヲ入レ置クヘシ水銀此中ニ集リ寄ルナリ

又法

鉛ヲ取テ薄ク延ハシコレニ此一倍ホトノ食鹽ヲ  
 加ヘ其ニ硝子器ニ入レ蓋ヲ固封シ而後コレヲ短  
 シトモ九日ノ間ハ土中ニ埋メ置ヘシ然ル寸ハ鉛  
 悉ク化シテ逆流スル水銀トナリ沈底シタルナリ



七  
金  
譯  
說  
卷  
之  
五  
半  
大  
尾

二  
十  
六

泰西七金譯說卷之五半大尾

Blank lined area for text.

十  
字  
方  
格



